

安全・安心の確保にむけた地域づくり

中国地方整備局

企画部長 富 樫 篤 英

(一社)日本建設機械施工協会中国支部会員の皆様には、平素より中国地方整備局の進める建設行政等に対し、多大なご支援、ご協力頂き厚くお礼申し上げます。

中国地方では、今年の7月の豪雨災害において、記録的な豪雨により、尊い人命が失われ、家屋の損壊や交通の寸断、河川堤防の決壊など大規模な自然災害が発生しました。この紙面をお借りし、亡くなられた方々のご冥福をお祈りすると共に、被災された方々に心からお見舞いを申し上げたいと思います。現在は、発災直後の緊急対応ステージから本格的な復旧・復興ステージに移行しておりますが、まだまだ日常の生活を取り戻されておられない被災者の方々も多く、そういった被災された方々の気持ちに寄り添う形で、復旧復興を進めていきたいと思っております。

我が国の社会インフラを巡っては、地震や頻発している風水害などの災害リスクの高まりに加え、施設の老朽化の進行、人口減少・少子高齢化など多くの課題に直面しております。そのような背景の中で、皆様もご承知のところですが、平成25年12月11日に「強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靱化基本法」が公布・施行されました。この基本法は、

- ①人命の保護が最大限図られること
- ②国家及び社会の重要な機能が致命的な障害を受けず維持されること
- ③国民の財産及び公共施設に係る被害の最小化
- ④迅速な復旧復興

を基本目標として、安心・安全な国土・地域・経済社会の構築にむけ国土強靱化を推進することとされています。

また、平成30年7月豪雨、台風21号、北海道胆振東部地震等、本年相次いで発生している災害で明らかとなった課題に対応するため、平成30年9月21日に安倍総理より関係大臣に対し、重要なインフラが、あらゆる災害に際して、その機能を維持できるよう、緊急に点検を行い、対策をとりまとめるよう指示がなされております。

今回の豪雨は、これまでの我々の豪雨災害に対する常識を覆すような大きな災害でありました。この頻発化、激甚化する災害にこれからどうやって向き合っていくのかということは、これから真剣に考えなくてはいけないことであり、「地域の安全・安心の確保にむけた地域づくり」が、国土交通省の基本的かつ最重要な任務であることを改めて認識したところでございます。

最後に、(一社)日本建設機械施工協会中国支部におかれましても、地域の安全・安心の確保にむけて、更なるご協力・ご尽力をお願いできればと思います。



平成30年度 災害時 情報伝達訓練を実施

○ 9月26日中国支部に対策本部を設置

当中国支部は、中国地方整備局と『災害時における中国地方整備局所管施設の災害応急対策業務に関する協定』を締結しており、災害対応中の建設機械の故障、排水機場のポンプやゲートの故障、排水ポンプ車の故障等が発生した場合、整備局からの要請に応じて、「修理要員派遣」「資機材調達」等の支援を行うこととしております。

当該訓練は、協定に基づく支援要請を想定し、会員間での「情報伝達」が迅速かつ適切に実施できるかを確認すると共に会員の皆様に当該協定を再認識してもらうことを目的に実施したものです。



○今年7月の西日本豪雨をイメージした災害想定

今回の訓練では、今年7月に甚大な被害をもたらした豪雨をイメージして、広島県西部を中心に被害が発生したとの想定で実施しました。太田川河川事務所管内において、①太田川下流矢口付近で内水排除中の排水機場のポンプ及び排水樋門ゲートが故障、②三篠川左岸3K600付近で河川氾濫が発生し、排水作業中の排水ポンプ車が故障、また、広島国道事務所管内の③国道2号安芸区瀬野川地内で土砂崩れが発生し、啓開作業中の油圧ショベルが故障したため、応急修理に必要な「派遣可能人員」の調査依頼があったとの想定で、当会で事前に組織している「機械設備班」「排水ポンプ車班」「建設機械班」の代表を通じて会員各社との情報伝達訓練を実施しました。

○会員各班への要請内容と対応一覧

機械設備班	排水ポンプ車班	建設機械班
班長：豊国工業中四国支店	班長：クボタ中四国支社	班長：コマツカスタマーサポート
①広島市安佐北区口田地先 ・太田川矢口排水機場で ポンプ、樋門ゲートが故障	②広島市安佐北区深川地先 ・三篠川左岸3K600付近で 排水ポンプ車が故障	③広島市安芸区中野地先 ・国道2号瀬野川付近で 油圧ショベルが故障
・ポンプ及びゲート設備の 応急修理班の派遣 【2人／班×2班】	・排水ポンプ車の 応急修理班の派遣 【2人／班×2班】	・油圧ショベルの 応急修理班の派遣 【2人／班×2班】
※派遣期間は1週間程度 (近隣個所の点検を含む)	※派遣期間は3日程度 (他のポンプ車点検を含む)	※派遣期間は3日程度 (他の機械点検を含む)
各班共通の派遣条件 ・現地までの道路交通網は確保されており、車両での到達は可能 ・応急修理、点検のための資機材は持ち込みとする。		

○訓練を踏まえての反省（気付）事項

①「応急対策業務の実施体制表」の確実な更新

- ・会員の人事異動はつきものであり、事務局が担当者を確実に把握する仕組みが必要

第69回新技術活用等現場研修会

1. 日 時 平成30年10月23日(火) 9時～17時

2. 研修内容

[山陰道] 多伎・朝山道路 湖陵・多伎道路
(松江国道事務所)

- ①事業の概要及び進捗状況について
- ②ICT舗装工の取組と3次元データによる出来形管理方法について
- ③多伎・朝山道路小田西地区舗装工事 ICT舗装工
- ④湖陵・多伎道路二部地区改良第8工事 ICT土工
- ⑤湖陵・多伎道路二部高架橋下部工事 下部工
- ⑥湖陵・多伎道路久村地区改良第10工事 ICT土工



今回は、この2つの事業（多伎・朝山道路、湖陵・多伎道路）について、新技術の活用状況等実地による研修を行いました。研修参加者は30名で、以下にその状況を報告します。

今回の研修では、はじめに多伎コミュニティセンターにおいて①島根県内における山陰道の整備状況、新技術の活用状況。続いて平成29年度から始まった②ICT活用試行工事（舗装）における3次元データによる出来形管理方法の2題について講義が行われました。

現地に移動しての実地研修では、各工事の工事概要の説明の後、改良工事ではICT土工の各段階の説明が行われ、特にICT建設機械による施工段階においては、実機による説明及び工事の進捗状況について、工事担当技術者から詳しく説明が行われました。

また、下部工事では新技術活用の取組や、工事の進捗状況について工事担当技術者から詳しく説明が行われました。午後からは、時々少雨となりましたが無事予定の研修を終えることができました。

研修会の現場付近では複数の工事が輻輳し厳しい工程管理が求められるなかで、本研修の実施について快く受け入れて頂き、また、現地では丁寧な説明をしていただいた関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。



第43回 新技術・新工法発表会を開催

当中国支部では、主催事業として支部会員各社で開発した「新技術・新工法」について、広く関係者の方々に発表・報告できる場として「新技術・新工法発表会」を年2回（春・秋）開催しています。本年度第2回目の発表会は、去る10月24日（水）広島市まちづくり市民交流プラザで開催し82名の参加をいただきました。なお、当発表会は、土木施工管理技士、RCCM、技術士の資格取得者の継続学習制度等の学習プログラムとして認定を受け参加者に受講証を発行しています。



発表会では、最初に国土交通省中国地方整備局より2題の講話をいただいた後、新技術・新工法に関する4題を発表しました。

発表会の開催にあたり、国土交通省中国地方整備局並びに発表に参加された会員企業の関係者の方々にはご協力をいただき有難うございました。

○プログラム（13時15分～17時00分）

1）講 話

①国土交通行政の最近の状況と中国地域の防災対策について

国土交通省中国地方整備局 神宮 祥司

②建設現場のICT活用と新技術・新工法の動向について

国土交通省中国地方整備局 赤星 剛

2）技術発表

①振動ローラの自動運転システム

株式会社安藤・間 武石 学

②舗装工事現場の働き方改革

株式会社NIPPO 竹内 伸

③ICT舗装工の取組と3次元データによる出来形管理方法について

奥村組土木興業株式会社 多和 英真

④油圧ショベルCatペイロードシステムによる生産性管理

日本キャタピラー合同会社 小笹 剛志

○参加者の声（アンケート）

アンケートにご協力いただきありがとうございました、今後の発表会の開催に活用させていただきます。

①内容の理解 : よくできた (46%) ほぼできた (52%) 出来なかった (2%)

②発表時間 : 長い (9%) 丁度良い (85%) 短い (6%)

③今後の仕事への活用 : 活かせる (24%) 少し活かせる (59%) どちらでもない (17%)

④会場の利便性 : 良い (42%) 普通 (53%) 要改善 (5%)

⑤会場の設備 : 良い (26%) 普通 (63%) 要改善 (11%)

⑥今後の内容 : 品質確保 (16%) 老朽化対策 (27%) 災害・防災 (25%)

建設リサイクル (9%) 「i-construction」 (61%) 「CIM」 (27%)

環境対策 (13%) その他 (9%) (複数回答可)

除雪機械の運転技術講習会を開催

平成30年11月2日(金)島根県雲南市において、(一社)島根県建設業協会との共催による「除雪機械の運転技術講習会」を、国土交通省中国地方整備局松江国道事務所・島根県の後援により開催しました。

本講習会は、除雪機械に関する基礎的知識、安全作業・事故防止に関する留意事項の講義及び実技指導を通して、安全で効率的な除雪技術の習得を目的としています。

今年度は参加者が69名と多く、オペレーターの育成や除雪技術の継承が喫緊の課題であることが伺える参加状況でした。

今後も冬期の道路交通確保のため、また、安全で確実な除雪作業の体制確立のため、地域のニーズに合わせた講習会を開催していく予定です。

なお、本講習会の開催にあたり国土交通省の関係者、島根県、(一社)島根県建設業協会の方々にはご支援ご協力誠に有り難うございました。

○当日の講習次第

①除雪作業の安全確保と除雪機械の取り扱いについて（座学）

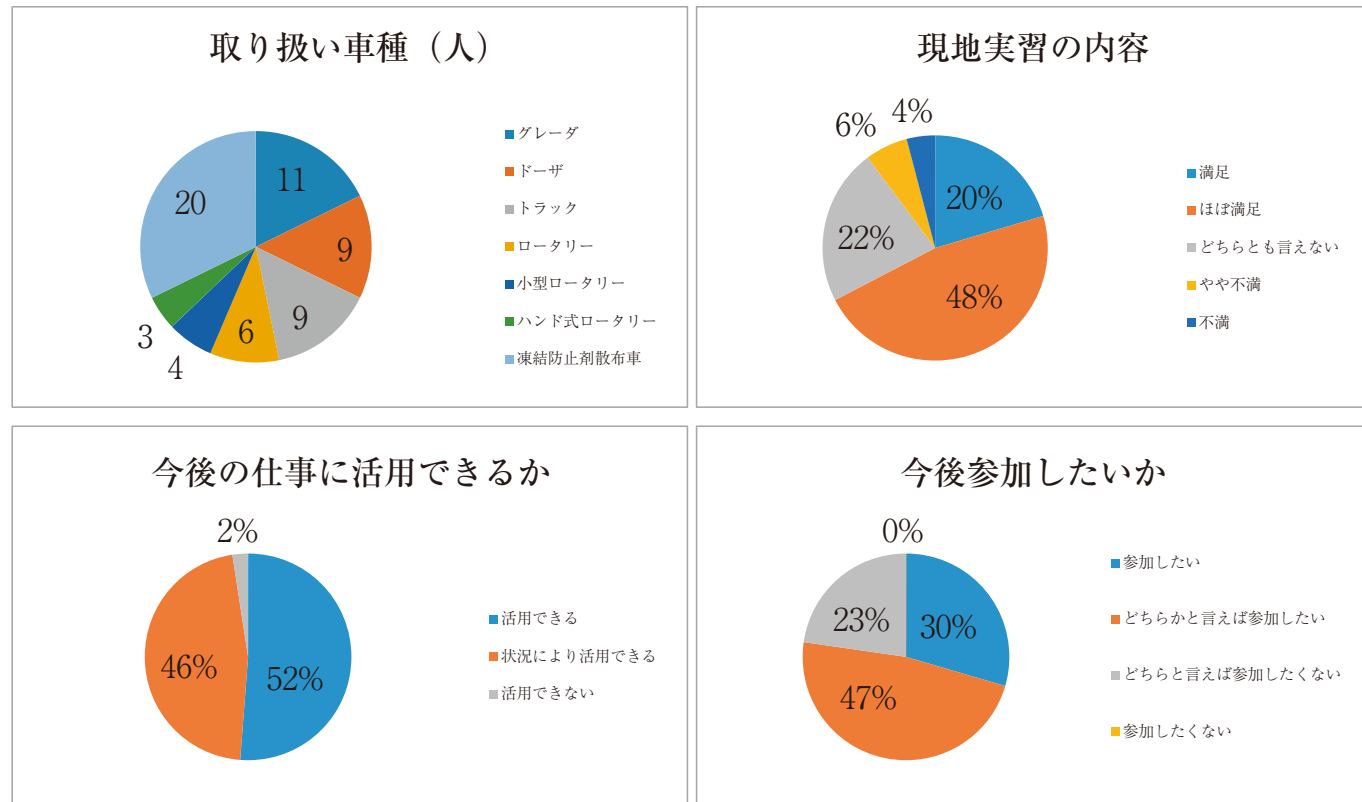
(一社)日本建設機械施工協会中国支部

②除雪機械毎の取り扱い（現地実習：班別）

(一社)日本建設機械施工協会中国支部

【除雪トラック・除雪グレーダ・除雪ドーザ・凍結防止剤散布車・ロータリー除雪車・歩道除雪車】

○アンケート結果の抜粋



○その他コメント

- ・このような講習をしてもらえると勉強になります。 ・社内の安全訓練等に活用できる。
 - ・作業技術向上の実技練習があるとよい。 ・実技をもっとしたい。
- 等のご意見をいただきました。次回以降に反映していく予定です。



国土交通省コーナー

平成30年7月豪雨災害（中国地整管内）における 災害対策用機械等の主な出動概要

平成30年7月豪雨では、記録的な豪雨（岡山、広島の約6割の観測地点で48時間降雨量が観測史上1位を更新）により、中国地整管内の各地で堤防決壊（中国4県9水系34箇所）等による浸水被害や土石流、地すべり、崖崩れ等の土砂災害が多発しました（平成26年8月の広島豪雨土砂災害と比較し、流出した土砂量は約8倍を上回る量）。大規模な浸水被害が発生した岡山県内に流れる高梁川水系小田川には、発災の当日から各地整より排水ポンプ車23台、照明車11台が集結し緊急排水作業に着手したほか、自治体からの支援要請（11自治体）にも中国管内等の排水ポンプ車、照明車を出動させ対応にあたりました。また、土砂災害等で市街地等へ流入した大量の土砂の除去や乾燥による粉塵対策のため、中国地整管内の各事務所の災害協定会社の協力や中国地整等の散水車、路面清掃車の派遣により対応を行いました。

高梁川水系小田川堤防決壊箇所における緊急排水作業



現地での排水計画検討



排水作業（排水ポンプ車）



夜間の復旧作業（照明車）



道路啓開作業



路面清掃作業（清掃車）



粉塵対策（散水車）



国土交通省コーナー

「北海道胆振^{いぶり}東部地震」の支援のため中国地整から 分解組立式BH等を北海道へ派遣しました

中国地方整備局TEC-FORCEの活動状況

- 発災翌日の9月7日、応急対策班3名及び遠隔操縦装置付き分解組立式バックホウ1台、待機支援車1台を派遣。
- 北海道厚真町厚真川幌内橋下流現場において、遠隔操縦装置付き分解組立式BHにて河川閉塞土砂撤去等を実施。
- TEC-FORCE隊員は9月15日19時(広島)と20時(出雲)、待機支援車は9月16日3時55分、分解組立式BHは9月18日9時に帰還。

(1)発生日時

○平成30年9月6日(木) 3:07

(2)震源地及び地震の規模

○場所：胆振地方中東部

(北緯42.7度、東経142.0度)、
震源の深さ37km(暫定値)

○規模：マグニチュード6.7(暫定値)

(3)各地の震度

○北海道厚真町(あつまちょう)で震度7、
北海道安平町(あびらちょう)、
むかわ町で震度6強を観測

(4)被害(9/13 9:00時点)

※被害情報は内閣府資料より

○人的被害：死者41名、負傷者655名

○住居被害：計193棟

(全壊64棟、半壊57棟、一部破損72棟)



お知らせコーナー

今後の行事予定

日 時	区 分	行 事 名	内 容	備考
2019年 1月28日(月)	意 見 交換会	中国地方整備局との意見交換会	・中国地方整備局と（一社）日本建設機械施工協会 中国支部との「意見交換会」	会員
2019年 5月20日(月)	総 会	第8回支部通常総会	・平成30年度事業報告及び同会計報告 ・平成31年度事業計画（案）及び同収支予算（案）	会員
	表彰式	建設の機械化施工優良技術者表彰	・平成31年度建設の機械化施工優良技術者表彰 （運転・整備部門、管理部門、技術開発部門）	会員
	記 念 講演会	記念講演会	・演 題：未 定 ・講 師：未 定	会員

「ゆきみらい2019 in 新庄」の日程が決まりました。

テーマ：「雪とまつりのHISTORY」～雪国救済運動発祥の地、新庄から未来へ～

期 間：平成31年2月7日(木)・8日(金)

会 場：山形県新庄市民文化会館（シンポジウム、研究発表会）

ゆめりあ～花と緑の交流広場～（オープニングセレモニー、見本市）

JR新庄駅東口駐車場 特設会場（除雪機械展示・実演会）

編集後記

12月に入り、日に日に寒さが身に染みる季節となりました。近年全国各地で異常気象が報告をされていますが、今年の夏はこれまで以上に厳しい暑さに見舞われました。全国各地で観測史上最高気温を更新し、猛暑日回数も30日を超えるなど、今思い返しても2度と経験をしたくない夏であったと感じます。また、そんな中多くの災害が発生しました。大阪府北部地震、西日本豪雨、西日本を縦断した台風21号、そして北海道胆振東部地震。ここ中国地方に於いても、7月の西日本豪雨では広島県・岡山県をはじめ各地で土砂災害や河川氾濫による被害が発生し、多くの尊い命が失われました。被災地では今もなお復旧作業が進められており、一日も早い復旧・復興が望まれています。

さて、CMnaviもようやく50号を迎えることができました。毎号、本協会の活動報告から今後の行事予定等、様々な情報を提供して参りました。今後もより多くの情報を提供し、当協会に関係する皆様の発展の一翼を担っていければと思いますので、今後とも宜しくお願いします。

広報部会

平成30年12月発行

編集・発行 （一社）日本建設機械施工協会中国支部機関誌編集委員会

〒730-0013 広島市中区八丁堀12-22 築地ビル402

TEL 082-221-6841

FAX 082-221-6831

<http://www.jcmanet.or.jp/chugoku/>

E-mail jcma-chugoku@mx41.tiki.ne.jp